



H26 春

萩農林：県産酒米増産

産地(JA等)：新たな生産調整対策

萩市：萩の酒売り出し強化

⇒関係機関で「山田錦」産地化協議開始
JAと実証ほ設置等

H26 秋の動き

米価下落

集落営農法人に深刻なダメージ

⇒主食用米に代わる経営の柱が必要

**萩市・阿武町・JA・萩農林が
一体となって
地元酒造会社向け「山田錦」産地化開始**

H26 秋～冬の実り

地元酒造会社と協議

「山田錦不足している、是非一緒に取り組みたい」

産地の方向性決定

推進母体：あぶらんど萩農業振興協議会

面積：30ha

推進対象：法人（+出荷実績ある個人）

出荷目標：1,500俵

産地目標：高品質目指す（篩目2.1mm）

1等以上・刈り品質含量7.8%未満
単収6俵

H26 秋～冬の実り

ほとんどの法人に栽培経験がない

倒伏・収量・品質…技術的課題多い



「山田錦」指導強化プロジェクトチーム結成

品質重視の栽培暦作成

H27 春

13法人（+特団、個人 計22経営体）
30ha「山田錦」栽培

産地化への不安

技術面の不安

目標

これからの需要は？

倒伏しやすい品種

地元酒造会社との絆づくり

ずっと買ってくれる？

初めて栽培する法人ばかり

求められる「山田錦」生産体制づくり

系統外の需給調整可？

工夫

互いに顔を見る

田んぼを見てもらう

一緒に産地PR

地元の人材活用

こまめにわかりやすく

見える形で評価

活動体制

S 酒造、O 酒造、I 酒造、N 酒造、Y 酒造、A 酒造

絆づくり

あぶらんど萩農業振興協議会

萩市・阿武町
交流主体

JAあぶらんど萩
事務局・調整

萩農林事務所
企画・コーディネート

推進

生産者

活動体制

「山田錦」指導強化PJT

★生産者代表 2 名

★指導経験持つ営農指導員

★JA 本所米担当

★萩農林事務所

★農林総合技術センター (オブザーバー)

栽培指導

生産者

計画①

地元酒造会社との絆づくり

主体：あぶらんど萩農業振興協議会

活動：酒造会社との意見交換

地元酒造会社への出荷しくみづくり

産地の状況を酒造会社に伝える活動

産地PR

互いに顔を見て話す

酒造会社との協議

【地元酒造会社】
タンパク質含量低い酒米を求める

【生産者】
これから需要はほんとにある？



田んぼを見てもらう

青空講習会

【地元酒造会社】
生産者や田がわかる酒米で
酒をつくるのは初めて



田んぼを見てもらう

産地ポスター「山田錦だより」



一緒に産地PR

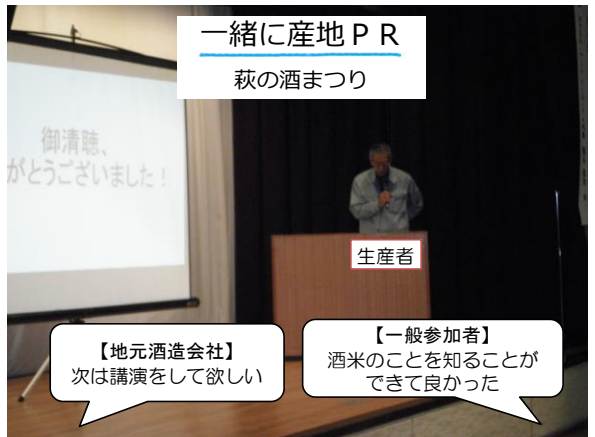
収穫交流会



一緒に産地PR

萩の酒まつり

生産者



【地元酒造会社】
次は講演をして欲しい

【一般参加者】
酒米のを知ることが
できて良かった



計画② 求められる「山田錦」生産体制づくり

主体：「山田錦」指導強化PJT

活動：展示ほ6か所設置

看板設置

栽培管理情報「山田錦通信」発行

講習会（水管理・穂肥・収穫・反省）

「山田錦」コンペティション開催



こまめに、わかりやすく 栽培管理情報「山田錦通信」

山田錦通信第1号

※ポイント1 田植え時注意に！

※ポイント2 基礎知識に！

※ポイント3 穂付検査 55俵！

山田錦通信第4号

| 項目 | 単位 | 値 | 単位 | 値 | 単位 | 値 |
|-------|-----|------|-----|------|-----|------|
| タンパク質 | % | 12.7 | % | 12.7 | % | 12.7 |
| 糖質 | % | 48.1 | % | 48.1 | % | 48.1 |
| 水分 | % | 72.4 | % | 72.4 | % | 72.4 |
| ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... |

※ポイント4 稲刈り時注意に！



見える形で評価 「山田錦」コンペティション

- 総合の部（1～3位）
- タンパク質含量の部
- 外観品質の部
- 収量の部





H 2 7 (本格栽培1年目) … 収量・等級課題

| | 目標 | 結果 | 目標達成 |
|---------|--------|----------|------|
| 出荷量 | 1,500俵 | 1,454.5俵 | × |
| 等級 | 1等以上 | 1等63% | △ |
| タンパク質含量 | 7.8%未満 | 8割達成 | ○ |
| 単収 | 6俵以上 | 5.5俵 | × |

H 2 8 栽培 技術改善

- ・ほ場選定（排水性・日当たり等）
- ・山間部の移植時期前進化
- ・栽植密度適正化
- ・適期収穫 等

需要量増加⇒面積34haに拡大

タンパク含量 **目標7.0%未満にレベルアップ**

- ・肥料の低減

H 2 8

計画②改定

求められる「山田錦」生産体制づくり

主体：「山田錦」指導強化PJT 継続・拡充

活動：展示ほ・看板設置「山田錦通信」継続

講習会（3回）適期収穫を強化

「山田錦」コンペ ほ場審査の部を新設



H28
収穫適期講習会強化



第2回「山田錦」コンペティションほ場審査の部審査

成果

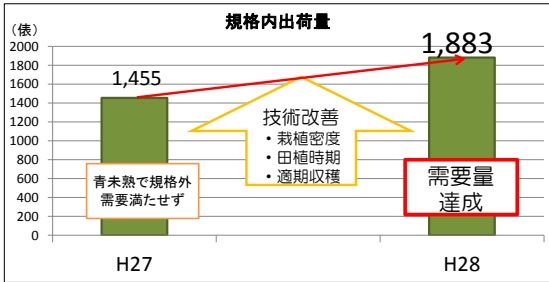
関係機関一体で34ha産地化

地元酒造会社に出荷するしくみ

酒造会社と産地の絆

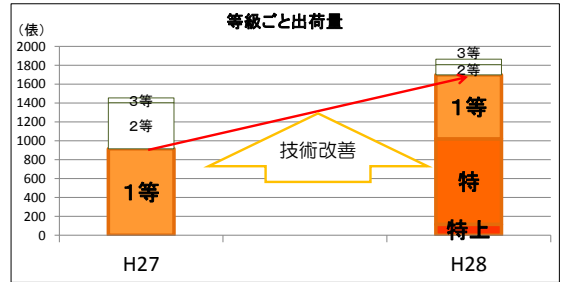
成果

山田錦指導強化PJTで技術指導し
求められる量を出荷



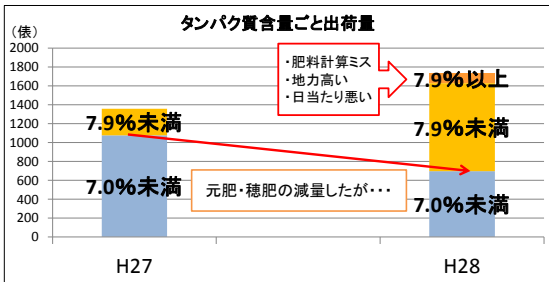
成果

求められる品質(外観) を出荷

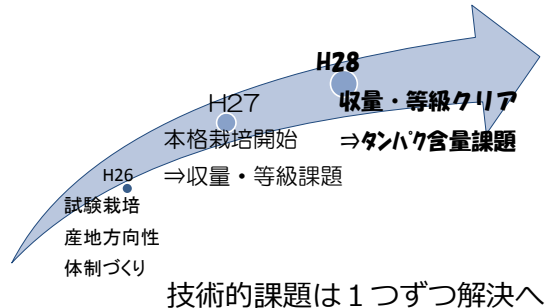


成果

求められる品質(低いタンパク質含量) 課題



成果



成果

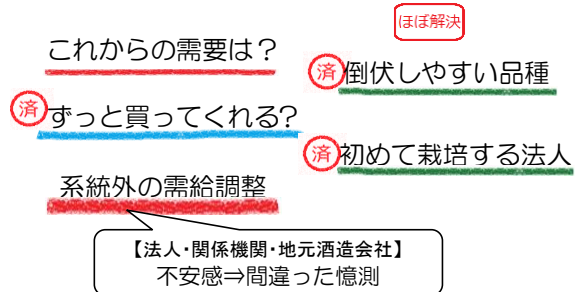
主食用米に比べ収益増加を確認

| | コシヒカリ (H26) | 山田錦 | |
|----------------------|----------------|---------|---------------|
| | | (H27) | (H28) |
| 収入 (円/10a) | 87,615 | 127,790 | 142,262 |
| 支出 (円/10a) | 59,408 | 58,326 | 58,085 |
| 収支 (円/10a) 人件費含まず | 28,207 | 69,464 | 84,177 |

55,970円/10a増益

産地化への不安

技術面の不安



残された課題

①求められるタンパク質含量の安定達成②現場の不安払拭③産地の拡大

今後の活動

①求められるタンパク質含量の安定達成

タンパク含量高い法人の重点指導
 (ほ場選定・地力に応じた肥培管理 等)

技術支援のしくみ定着

(体制：指導強化PJT解散⇒あぶらんど萩稲作部会)

今後の活動

②現場の不安払拭

県域での需給情報・流通販売情報の収集・伝達

酒造会社との絆を強固に

(体制：あぶらんど萩農業振興協議会)

- ・需給情報・意見交換
- ・夏田冬蔵⇒互いに発展できるしくみ

今後の活動

③産地の拡大

とう精工場？(酒造会社6社+集落営農法人)

⇒種子～酒米～精米～日本酒 ALL阿武萩

阿武萩の持つ強みで国内・海外に売り込み

⇒需要拡大・産地の醸成

